

「昭和100年」激動の昭和と航空

鳥海 真一 (S-220・神奈川)

激動の昭和時代を、日本の航空の面から郵趣品を使って紹介した。昭和初期、民間による郵便輸送を経て、航空郵便制度へ、当時の日本の対外政策に沿って中国、東南アジアへの飛行、そして軍国化による日中戦争、太平洋戦争、敗戦へと続いた。戦後の航空活動の禁止と再開、旅客機の進歩で大量輸送に至る飛行機の開発を合わせて展開した構成となっている。

昭和4年

日本航空輸送(株)幹線定期航空路開設、航空郵便制度も開始

昭和4年4月1日、国策で設立された日本航空輸送株式会社が東京～大阪～福岡間と朝鮮釜山～京城～大連間の定期航空路線を開設、同時に航空郵便制度による航空郵便の運送を開始した。

郵便物を航空輸送する場合に航空増料金が必要になった。飛行機は輸入するフォッカー機が間に合わず廉払い下げのサルムソン機が使用された。輸送するのは郵便と貨物だけ、旅客輸送は同年の7月15日からフォッカー機によって始まった。



平成7年発行の「郵便切手の歩みシリーズ」第4に日本初の航空郵便切手と飛行機への最初の航空郵便の積み込みが描かれている。

航空郵便物には特殊通信日付が押印された。  
昭和4年4月1日福岡引受大阪宛て



昭和4年4月3日大連～釜山航空輸送依頼便



昭和16年

太平洋戦争の開戦、日本海軍ハワイ真珠湾を攻撃

昭和16年12月8日(日本時間)日本海軍の空母部隊から発進した戦艦連合の攻撃部隊がハワイの真珠湾のアメリカ太平洋艦隊を攻撃、日本とアメリカが開戦、太平洋での戦争が始まった。参加した日本の海軍機は零式戦闘機、九七式艦上攻撃機と九九式艦上爆撃機であった。



日本軍の真珠湾攻撃と、日本との戦争開戦文書に署名するアメリカ大統領ルーズベルトの写真掲載した新聞の一部を描いている。

米太平洋艦隊の戦艦を攻撃する九九式艦上爆撃機の編隊を描く



日本空母を発進する零式戦や攻撃参加の日本機群と迎撃する米戦闘機群を描く。

真珠湾攻撃を描いた切手が「20世紀デザイン切手」で発行された。



昭和54年

全日空500人乗りボーイング747SRジャンボを国内幹線に導入

昭和54年1月25日全日空は国内航空需要の増加に対応し、ボーイング747SR型500人乗りを東京～札幌、東京～福岡線に初就航させた。国内幹線の主力機として順次各地へ就航させ、大量輸送によって航空運賃の低減化、利用客のさらなる増加へと繋がった。

\*昭和54年1月25日初就航時は郵便搭載が無く、2月9日東京～那覇線初郵便搭載記念カバー



\*全日空長崎～大阪線スーパージャンボ初就航記念カバー

